（別紙）

枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格の廃止案に対して寄せられた意見の概要及び意見に対する考え方について

お寄せいただいた御意見の概要とそれに対する当省の考え方は、下表のとおりです。

御意見の概要	件数	御意見に対する考え方
第1部　5.1　表示事項		
パブコメ案にあるような、「等級」を省略する場合には「品名」を記載するといった規定は理解しにくい。このため、今回のJAS規格(案)においては、表示する事項を網羅的に示し、品名については「表示することができる」と規定し、一方、「格付の表示の様式及び表示の方法」において、性能区分及び薬剤名を削除して、JAS表示の仕組みを分かりやすくしてはどうか。 この場合、等級についてはJAS規格の附属書によって記載する位置を図示して規定してはどうか。	1	表示事項は、5.1において網羅的に規定することとしています。また、今回、業界の皆様のご意見を踏まえ、事業者の利便性のため、現行の表示方法も選択可能としつつ、格付の表示における「薬剤名」「性能表示」についても、JASで定める表示事項と重複して記載している場合は、格付の表示から省略可能とすることとしました。 ただし「等級」を省略する場合は、表示内容が製材JASにおける下地用製材などと酷似し、誤解を招く可能性があるため、「品名」の記載が必要と考えております。 なお、等級の記載位置については、格付の表示の一部として「格付の表示の様式及び表示の方法」に明示する必要がありますので、規格への記載は行いません。
第1部　5.2　表示の方法 a)・b)		
5.2.1.1 a)品名の記載方法において、甲種及び乙種によらず「枠組材」と記載しなければならないとなっている一方で、b)等級の記載方法において、「1)甲種枠組材と表示するもの」などとなっており、誤解を招く書きぶりとなっていることから、b)の「と表示するもの」は削除するべきではないか。	1	貴見のとおり、5.2.1.1 b)については、「と表示するもの」の文言は削除いたします。

第1部　5.2　表示の方法 c)		
表示において、既存の市場においても「トドマツ」の表記で流通しており、「JST」と付加することで混乱を招くおそれがあること、また他の樹種との整合性を考慮し、「トドマツJST」表記を「トドマツ」と簡略化することを求めます。	2	今回の改正において、樹種群におけるトドマツの位置づけが、「S-P-F又はSpruce-Pine-Fir」から「JST」へ変更することに伴い、トドマツの本JASで定めるたて継ぎ材の曲げ強さの基準、及び建設省告示「木材の基準強度Fc、Ft、Fb及びFsを定める件」で定める基準強度Fbも改正されることになります。 樹種群「S-P-F又はSpruce-Pine-Fir」に属したトドマツ枠組材及びたて継ぎ材は既に建築物に使用されている実態を踏まえ、それらと区別するために、これまでの「トドマツ」という表記から、異なる表記にする措置が必要です。 なおご意見を踏まえ、業界関係者と再度調整の結果、より簡略化するための表記として「トドマツ - 1」（「 - 」はハイフン）といたします。
第1部　5.3　表示箇所		
製材等において各束、各こりで表示ができるようになっているところ、枠組壁工法構造用製材についても、こり表示を可能にして欲しい。	1	枠組壁工法構造用製材においては、建築物への使用に当たり、本JASの表示を含め、各本への表示を確認することが一般的であると考えています。 現在、長さについては、こり表示が可能となっていますが、表示全体をこり表示とすることについては、枠組壁工法構造用製材の流通、使用の実態を考慮して検討する必要がありますので、今後の検討の参考とさせていただきます。
第1部　附属書D		
国産材の樹種群の記号は従来「JS I」、「JS II」及び「JS III」とされていたところ、今回は「JS A」及び「JS T」となって一貫性がなく理解しづらい。このため、「JS IV」及び「JS V」とするか、全体を（分かりやすく）「JSH」「JSS」「JSK」等とするか又は「HINOKI」「SUGI」等とするか、いずれにしても統一的な一貫性のある記載方法としてはどうか。	1	樹種群「JS I」、「JS II」及び「JS III」については、本JASで定めるたて継ぎ材の曲げ強さの基準、及び建設省告示「木材の基準強度Fc、Ft、Fb及びFsを定める件」で定める基準強度Fbの順に定めた経緯があり、今回新設されるアカマツ及びトドマツを「JS IV」及び「JS V」とした場合、これら強度順の並びとならないこと、また原案作成検討会の場で、和名が良いとの意見が多かったことを踏まえ、「JS A」「JS T」としました。

※今回の改正案に直接関係のない１件については、御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。